

GA313

情報文化演習－「犯罪・アートの精神分析」研究－

森村 修

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「犯罪」・「アート」と「精神分析学」との関係性を、J. ラカン (Jacques Lacan, 1901-1981) の思想にもとづいて理解し、犯罪やアート作品における「深層心理（無意識・欲望）」の影響を探ることにある。本演習では、猟奇的犯罪には犯人・容疑者の「深層心理」が「表現」されているということを犯罪分析から明らかにする

【授業の目的】

本演習では、ラカン精神分析の入門テキストや彼の講義録などを題材にして、私たちの深層心理がどのように構造化されているかということについて考察することができる。さらにまた、犯罪やアート作品を深層心理学的・精神医学的に分析することで、「深層心理の表現」としての「犯罪」と「深層心理」との関係、または「アート作品」と「深層心理」との関係、さらには健常者の表現と猟奇的犯罪者や精神病患者の表現との関係を明らかにすることができる。

【到達目標】

- (1) 私たちの心理や思考を根底で支えている「深層心理（無意識・欲望）」に精神分析学を通じてアプローチすることで、意識と無意識、欲望などの深層心理の構造について理解することができる。
- (2) ラカンの精神分析思想を研究することで、無意識と犯罪やアートとの関係を学ぶことができる。
- (3) 精神病患者のアートが、モダン・アートにいかなる影響を与えたかをアートの歴史から理解することができる。また、表現としての「アート」を分析する手法について説明することができる。
- (4) 猟奇的な犯罪が「深層心理の表現」として解釈可能であることを、ラカン精神分析を介して理解することができる。
- (5) 心理学的・哲学的テキストの読解方法を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

通常の授業では、①指定テキストに基づいた「グループ研究」と、②個人がそれぞれ自分のテーマを研究する「個人研究」の発表を交互に行う。③三年生には「ゼミ論・ゼミ制作」を、四年生には「ゼミ総括研究」を義務づける。④課外活動として、年三回（初夏・夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施する。⑤個別の希望者には、外部講師と連携した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えている。

①「グループ研究」では、ゼミ生をいくつかのグループに分けて、事前にそれぞれ担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成しておき、ゼミ当日に担当グループが発表し、それ以外のゼミ生と討議する。

②「個人研究」では、ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進め、ゼミの所定の時間内に研究発表を行う。その成果を、「ゼミ論」・「ゼミ制作」や「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」にまとめてもらう。「個人研究」については、2015年度も引き続き、川村たつる先生のご協力をお願いするつもりである。おもに個人研究の作品制作については、川村先生からの直接的な指導があり、ケアの実践指導ならびに論文制作を、森村が担当する。

③「ゼミ研究」・「ゼミ総括研究」では、三年生には、春学期のグループ研究のまとめとして「ゼミ論」（春学期）を、また年間を通して「個人研究」のまとめとしての「ゼミ論」・「ゼミ制作」（秋学期）が義務づけられており、四年生には、一年間を通して「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」が義務である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①演習の概要説明 ②自己紹介 ③ゼミ役員決定
2	グループ研究① 「ラカン—鏡像段階」 ①:第1章「二つの症例」	①「パラノイア精神病とその人間への関連」 ②ババン姉妹の犯罪
3	グループ研究② 「ラカン—鏡像段階」 ②:第二章「鏡像段階」	①鏡像段階とは何か ②想像界
4	グループ研究③ 「ラカン—鏡像段階」 ③:第三章「父の名前」	①シェーマL ②象徴的なもの
5	グループ研究④ 「ラカン—鏡像段階」 ④:第四章「シニフィアン」	①シニフィアン ②ファルス
6	グループ研究⑤ 「ラカン—鏡像段階」 ⑤:第五章「欲望と主体の運命」	①主体の本性 ②対象 a
7	グループ研究⑥ 「ラカン—鏡像段階」 ⑥:第六章「フロイトの覚醒」	①死の欲動 ②享楽 ③現実界
8	個人研究① 「ゼミ論」発表①	ゼミ生の個人研究発表
9	個人研究② 「ゼミ論」発表②	ゼミ生の個人研究検討
10	個人研究③ 「ゼミ論」発表③	ゼミ生の個人研究総括
11	グループ研究⑦ 「ラカン—鏡像段階」 ⑦:第七章「ものの出現」	①精神病 ②排除
12	グループ研究⑧ 「ラカン—鏡像段階」 ⑧:第八章「人間という「症状」」	①女性という性 ②性的関係は存在しない
13	グループ研究⑨ 「ラカン—鏡像段階」 ⑨:第九章「立ち返るべき場所」第十章「自己の収奪」	①四つの語り ②メビウスの帯
14	個人研究④ 「ゼミ総括研究」中間発表①	四年生個人研究発表
15	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」中間発表②	四年生個人研究発表総括

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
17	グループ研究① 「ラカンの殺人現場案内」研究①:序論・第一章	①精神分析と犯罪写真 ②写真と「視覚的無意識」（ロザリンド・クラウス）
18	グループ研究② 「ラカンの殺人現場案内」研究②:第二章	①神経症と犯罪
19	グループ研究③ 「ラカンの殺人現場案内」研究③:第三章	①性的倒錯の犯罪現場
20	個人研究① 「ゼミ論」中間発表①	三年生個人研究発表

管理 ID: 1705230
授業コード: C1105

21	個人研究② 「ゼミ論」中間発表②	四年生個人研究発表	
22	グループ研究④ 「ラカンの殺人現場案内」④:第四章	①精神病の犯罪現場	
23	グループ研究⑤ 「ラカンの殺人現場案内」⑤:第五章	①神経症の犯罪現場	
24	グループ研究⑥ 「ラカンとアート」①: 「不実なる鏡」第一章・第二章	・ラカンの言ったこと ・鏡の反転	
25	グループ研究⑦ 「ラカンとアート」②: 「不実なる鏡」第三章・第四章	・鏡と割れ目 ・ポルノグラフィ	
26	グループ研究⑧ 「不実なる鏡」第五章・第六章	・颯風の日 ・近親相姦的エクリチュール	
27	グループ研究⑨ 「不実なる鏡」第七章・第八章	・享楽あるいは私は-意味を-聴く ・眼差しの解除	
28	個人研究③ 「ゼミ論」発表①	三年生個人研究発表	
29	個人研究④ 「ゼミ論」発表② 「ゼミ総括研究」発表①	三年生・四年生個人研究発表	
30	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」発表② ② 全体のまとめ	①発表・ゼミ生による討議 ②担当教員による総括 ③ 2016 年度の反省	

②年三回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には参加が義務だが、拘束力はない。向上心をもって、より成長したい人だけが積極的に参加してくれることが前提である。ただ、本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはない。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっている。

※ 本演習では、授業外の活動が重要である。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されているので、注意を要する。

【注意】

基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

グループ研究は、毎回の担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成するため、グループごとに集まって事前に準備する必要がある。テキストの読解はもとより、他の資料を検討することで、テキストの理解を一層充実させることができるからである。そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりや深みを増すことになる。

【テキスト（教科書）】

ラカンの著作ならびにラカン講義録を使う。
 福原泰平『ラカン—鏡像段階』講談社、1998年
 ヘンリー・ボンド『ラカンの殺人現場案内』太田出版、2012年
 ミシェル・テヴォー『不実なる鏡—鏡・ラカン・精神分析』、人文書院

【参考書】

ラカン精神分析学に関するもの
 アウトサイダー・アート、アール・ブリュットに関するもの
 美術・芸術史に関するもの
 犯罪学・犯罪史に関するもの

【成績評価の方法と基準】

- ①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
- ②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
- ③ゼミ論（三年生）（50 %）／ゼミ総括研究（四年生）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【授業外の活動】

①ゼミ卒業生や大学院生との交流がある。年一回年末の「望年会」には、1期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まる。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産といえる。それ以外にも、様々な方面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われている。